

〔新鹽尻〕一 凧を上る事も、明和之頃迄は正月を待てあげる故、親類よりも年玉に送り越せり。

〔日次紀事正一月〕此月士農工商及僧徒神官各執贄互相賀、凡新年互贈答之物、總謂年玉、凡諸商常所賣其物之家、是謂得意方、新年必執年玉、行其家賀、新年、凡大人小兒之醫、外科眼科針醫各執贄、行平生所施藥之家、祝新正、醫家多延齡丹、丁子圓、萬病解毒圓、保童圓、萬應膏、太乙膏類爲贄、至諸民各作業之物相贈、如高貴、太刀馬代時服等贈答之物不及枚舉。

〔公家年事上〕正月三日 親王御方御使始 諸親王江 御末廣一本宛被進之、御使釜殿勤之、

〔後水尾院當時年中行事正上月〕四日略 中 今日わたりより、宮門跡寺びくに衆などより、年始の御文參る、伏見どのより、すへのもの女房持て參る、勾當の所にて帶をたぶ、こなたよりの返事もひ司かなへどもたせて參る、御寺の御所のつかひにも帶をたぶ、此外其きたなし、ふしみ殿八條殿等の宮方へも、御扇を參らせらる、勾當の内侍文をひて、かなへどもちて參る、

〔御湯殿の上の日記〕長享三年正月二日宮の御方、まやうれんゐんの宮へも御あふぎ參らせらる、四日宮の御かたへく、井まゐる、ふしみどのへ、御あふぎひしくひまゐる、まやうれん院の宮の御方へ御ようなるよし御申ありて、御あふぎ二ほん參らせらる、新中納言に御あふぎたぶ、ほうあん寺どのより御ふみまゐる、御返事にいをひ一つ、み參らせらる、あんせん寺どのへ御かつしき御所へ二かう二かまゐる、こはまゐりののちあるべきをまづまゐる、

永祿四年正月二日御こきいた、御こきのこ、御あふぎ、わか宮の御かたへながはしいよ殿にもたせて、御かたの御所へ御まゐりあり、大まやうじどの、御かつしき御所へも、御こきいた御こきのこまゐる、三日、どんげゐんのかつしきへ、御こきいた御こきのこまゐる、

慶長三年正月一日略 中 亥ゆごうより御かれいの御たるまゐる、二日略 中 女御よりかれいとて、二色一たるまゐる、略 中 亥ゆごうへ御こきいたまゐる、五日略 中 きやうじびせんのかみ、ひ